



東京YMCA

2014 10月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。



運動会会場には、今年のテーマ「想いをこめてありがとう」と共に、園児家庭から提供いただいた写真を展示しました。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

10年間の感謝をこめて

オリーブ保育園 園長 宇野 雪枝

江東区東雲にある認可保育所「YMCAオリーブ保育園」が、開園10周年を迎えました。現在、0歳児から小学校就学前の5歳児まで119人が在籍しています。園児以外にも、地域の親子のための登録制度「マザーグースの会」を設置し、誕生日会や読み聞かせ、コンサートなど、園の行事に招待しているほか、園庭も毎日開放して交流しています。また、保育士が公園に出向いて遊びを提供する「あおぞら保育」(オリーブ・キッズ・パーク)など、さまざまな形で地域の方々と共に歩んでいます。

今年度の運動会のテーマは「想いをこめてありがとう」。このテーマをデザインしたパンダを作った園児たちにプレゼントしたほか、例年飾っている万国旗には、各家庭で「ありがとう」のメッセージを書いていただき、生まされてきてくれたありがとう、「元気でありがとう」など、子どもの成長に感謝するものや、「おいしくごはんをありがとう」といった、子どもから親へのメッセージなど、たくさん「ありがとう」が、会場を彩りました。

また会場には、園児宅から提供いただいた写真を貼り合わせて、「祝10周年」の巨大なディスプレイも掲示しました(写真)。10年分の思い出が詰まったこの掲示を見て、あるお母さんは、「オリーブの歴史は我が子たちの歴史です」と。

9月27日には10回目の運動会を、江東区立東雲小学校を会場に開催しました。ご家族や卒園児、地域の方々と元保育士など600人余りが集まり、あちこちから再会を喜ぶ光景が見られました。

今年度の運動会では、今年度の運動会をデザインしたパンダを作った園児たちにプレゼントしたほか、例年飾っている万国旗には、各家庭で「ありがとう」のメッセージを書いていただき、生まされてきてくれたありがとう、「元気でありがとう」など、子どもの成長に感謝するものや、「おいしくごはんをありがとう」といった、子どもから親へのメッセージなど、たくさん「ありがとう」が、会場を彩りました。

オリーブには、「かぞくチーム」という異年齢交流活動があります。通常の年齢別のクラスのほか、3〜5歳児で縦割りグループを作り、数日間一緒に過ごしたり、運動会の競技も一緒に参加したり、遠足に行ったりしているのです。が、「小学校に行っても兄弟のように気遣ってくれる」との保護者の声も聞かれます。

オリーブ保育園で共に過ごした「かぞく」たちが、友だちを愛し、大きな家族となって地域に広がり、温かなコミュニケーションを作っていければと願っています。

10周年を記念してこの夏、オリーブ保育園の年長児から組の子どもの夏祭りは、180センチメートルもある「かかし」を1人1体製作しました。発端は、ある職員が持ってきたチラシ「第17回かかしコンクール、作品募集中！」でした。これは深川資料館通りの商店街が

主権するコンクールで、子どもたちに話をしたところ「かかし、作りたい!」とみんなの心が一つになり、参加を決めました。製作には、園全体の保護者が協力くださり、布、フェルト、綿、毛糸、ボタン等いろいろな材料を提供してくださいました。

作品作りは、夏のプールや自由あそびの合間に、園児1人につき保育士1人がオブザーバーとして寄り添う形で進められました。自分で作った設計図を見なが



コンクールでは全員が銅賞やユニーク賞を受賞しました(写真上)。また運動会会場でも披露されました。



10周年を記念してこの夏、オリーブ保育園の年長児から組の子どもの夏祭りは、180センチメートルもある「かかし」を1人1体製作しました。発端は、ある職員が持ってきたチラシ「第17回かかしコンクール、作品募集中！」でした。これは深川資料館通りの商店街が

深川の「かかしコンクール」にも出展

主権するコンクールで、子どもたちに話をしたところ「かかし、作りたい!」とみんなの心が一つになり、参加を決めました。製作には、園全体の保護者が協力くださり、布、フェルト、綿、毛糸、ボタン等いろいろな材料を提供してくださいました。

作品作りは、夏のプールや自由あそびの合間に、園児1人につき保育士1人がオブザーバーとして寄り添う形で進められました。自分で作った設計図を見なが

主権するコンクールで、子どもたちに話をしたところ「かかし、作りたい!」とみんなの心が一つになり、参加を決めました。製作には、園全体の保護者が協力くださり、布、フェルト、綿、毛糸、ボタン等いろいろな材料を提供してくださいました。

作品作りは、夏のプールや自由あそびの合間に、園児1人につき保育士1人がオブザーバーとして寄り添う形で進められました。自分で作った設計図を見なが

子育てコラム



共に成長できる幸せ

爽やかな秋空のもと、心弾ませ体を動かして輝いている子どもたち。そんな子どもたちと共に過ごす毎日に感謝しつつ「保育」に携わらせていただいています。

自分自身、「子育て」は一段落の年代になり、日々奮闘している若い保育者たち、子育てに一生懸命の保護者の方々と過ごしながら思うことがあります。

それは、「子育て」の時は、神様がくださった特別な時、ということです。

子どもたちに寄り添い見守る保育者たちは、神様から与えられた特別な時、共に過ごす保育者たちの姿があるのです。

このことは保護者の方々も一緒です。我が子に精一杯の愛情を注ぎ、その子を見守り支え、成長を信じて待つ、そして成長の手ごたえを感じる、そんな

た「種」を十分に育むことができるよう、良い土壌を造りたい、豊かな水を注ぎたいと願って日々励みます。子どもたちは、そのどもちはゆつくりと、でも確かに成長します。嬉しいことです。そして同時に保育者たちの成長も感じます。

子どもたちが育つ時、それは穏やかな日々ばかりではありません。でも、その様な日々も神様から与えられた恵みのときと捉えています。

保育者たちは、子どもたちのあるがままの姿を受け止め、成長を信じ、向き合います。そこに、子どもと共に成長する保育者の姿があるのです。

このことは保護者の方々も一緒です。我が子に精一杯の愛情を注ぎ、その子を見守り支え、成長を信じて待つ、そして成長の手ごたえを感じる、そんな

た「種」を十分に育むことができるよう、良い土壌を造りたい、豊かな水を注ぎたいと願って日々励みます。子どもたちは、そのどもちはゆつくりと、でも確かに成長します。嬉しいことです。そして同時に保育者たちの成長も感じます。

赤三角

讃美歌452番「正しく清くあらまし」は1906年に早稲田大学の英語教師で東京YMCAの早稲田鶴巻町寮に寄宿していた23歳のハワード・アーノルド・ウォルターが作詞したものである。彼は寮生たちが、毎朝祈禱会をし、日曜夜は聖書研究会で学び、自身の人格的成長と日本の発展を願い、高い志をもって生活をしていることに感動してこの詩を書き、母親に送った。それが全米でヒットし讃美歌になったと聞いた▼1892(明治25)年から東京YMCAは寄宿舎の運営を行ってきたが、財政困難で鶴巻町寮も2年で廃舎となってしまった。しかし、この詩に感動し学生寮の建設こそが日本の青年を育成すると確信したジョン・R・モット(ノーベル平和賞受賞)は1907年、5万ドルの資金を持って学生寮建築のため来日。YMCAだけでなく全国の旧制高校・大学にも寮を建設する▼ウォルターは帰国後、牧師となりインドに渡ったが、風土病のため35歳の生涯を閉じた。「未開の地の青年の友」となりたい。正しく清く生きたい。愛の人、全たき(完全な)人になりたい」とYMCAの寮での誓いから、新たな人生が開けていった▼YMCAは限らない成長を求めていく同志集団でもある。戦後、早稲田鶴巻町寮をルーツとする「山手学舎」が建てられ、この11月に60周年記念会が行われる。(社会体育・保育専門学校校長 堀口廣司)

■ 地球市民育成プロジェクトに参加

にほんご学院留学生 サイ・ルウさん



東京Y M C Aにほんご学院の留学生サイ・ルウさん（＝写真中央）が、日本Y M C A同盟主催の研修「Y M C A地球市民育成プロジェクト」に参加中です。

このプロジェクトは、環境問題や貧困、紛争など地球規模の課題を学び、行動を起こすことのできる若者を育成する1年間の研修で、夏に1週間の宿泊研修を受けて各自のアクションプランを作成し、その後それぞれの国や立場で活動をすすめ、3月に報告を行い、「Y M C A地球市民」として認証されます。今夏も世界8カ国から75人が東山荘（静岡県御殿場市）に集い、各種の研修を受け、プランを作成しました。

サイさんは、中国の蘭州出身の24歳。昨年10月に当校に留学し、大学院受験に向けて勉強しています。大学2年の時に中国で、心臓病の子どもたちを支援するNGO「小紅巾 ショーホンジン（Little Red Scarf）」で活動していたことから、今回の研修に応募しました。このNGOは、中国の中でも心臓病が多い甘粛省（ガンスウ）の子どもたちのために、アメリカで募金活動を行い、手術費などを支援しています。サイさんは翻訳ボランティアとして、子どもたちの様子をアメリカの寄付者に伝えてきました。

研修でも、このNGOの働きについて発表したところ、ベトナムやタイ、台湾の若者からたくさんのアドバイスや意見が出され、ホームページを用いた新たな募金プランを作成しました。「最初、英語で1週間研修を受けることには不安があったけれど、いろんな国の人と話をして、世界が広がった。最終日には涙を流して別れを惜しむほどの友だちができた」とサイさん。大学院では国際コミュニケーション学を学び、さらに世界を広げたいと意欲的です。（広報室）

■ 第1回卒業式を開催

東京Y M C A 高等学校



昨年開校した通信制高校のサポート校「東京Y M C A 高等学校」では9月20日、第1回の卒業式を行い、1名が卒業しました。

卒業した生徒は、音大付属高校の音楽科からの転入生でした。3年生の10月に、大きなストレスで声が出なくなってしまったのです。当校の学校説明会に来た時、彼女は「数か月ぶりに家を出て来ました」と言っていました。学校をやめて2か月間は毎日布団の中にいた、とお母さんは話してくれました。入学してから、すべてが順調だったわけではありませんが、彼女はそれを乗り越えて、卒業の日を迎えました。

卒業式には、大阪の本校から佐藤裕幸校長も駆け付け、早稲田教会の長尾有起伝道師に奨励をいただき、暖かな礼拝形式で行われました。また、アルバムや飾り付けは在校生が1週間かけて用意しました。最後に彼女はお礼がしたいといって、歌曲を3曲披露してくれました。本当に素晴らしい歌声でした。彼女の声が響いた時、ある教員は涙が止まらなくなりました。私も心から神様に感謝しました。（高等学校 学院長 井口真）

■ 聖路加国際病院・Y M C Aぐうぐうキャンプ

聖路加国際病院・形成外科の松井瑞子医師の協力の患者である子どもたちとその家族を対象に始まった「聖路加国際病院・Y M C Aぐうぐうキャンプ」が8月22日～24日、4回目



の夏キャンプを行いました。今年はキープ協会ユースキャンプ場（山梨県清里）を会場とし、慈恵医科大学病院など他クリニックの子どもたちも含めて30人（子ども26人、保護者4人）が参加。普段できないような酪農体験、キャンプファイヤーなどを楽しみ、またキャンプソング作りにも挑戦するなど、思い出に残るキャンプとなりました。今年もビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社が協賛くださり、今後もクリスマス会、スポーツクリニックなど、年間を通して活動を予定しています。

（マネジメントディレクター 村上祐介）



コスチューム賞は(株)カークギルジャパンの「チーム“見た目第一”」。会場を華やかに盛り上げてくれました。



優勝は富士ゼロックス端数倶楽部の「富士ゼロックスA」。約7.8kmを22分18秒で快走しました。



↑「こどもラン」には小学生と幼児親子、総勢600人が参加。大人と同じ1.3kmのコースを走りました。



↑三菱商事賞はY M C A東陽町センターの「チームえいこ」。伴走者とともに頑張りました。



↑ボランティアによる模擬店。カキ氷には長蛇の列ができました。

「東京Y M C Aインターナショナル・チャリティーラン」が9月23日、都立木場公園（江東区）で開催され、澄みわたる秋空の下、85チーム510人が走り、今年28回目となりました。競技前に行なわれた「こどもラン」には600人を超す親子が参加したほか、運営ボランティア・スタッフ250人、応援者を合わせると総勢1500人以上となり、開始以来最大の賑わいとなりました。「Y M C Aインターナショナル・チャリティーラン」は、参加費で障がいのある子どもたちを支援すると共に、障がいへの関心を高めることを目的とした駅伝大会で、1987年に始まり、今年28回目となりました。現在は全国17カ所のY M C Aで行われており、5000人以上のランナーが参加しています。ランナーが多様なことも特長で、本格的な実業団チームも、障がい者も一緒に走るほか、「インターナショナル」の看板

のとおり、国籍も人種も年齢も多様で、まさにユニバーサルな大会になっています。東京大会の参加費は1チーム10万円。各チームとも募金を集めたり社費を計上したりと、それぞれに工夫して参加くださっています。おかげさまで抽選券販売など合わせて総額851万9190円が寄せられました。物品のご支援も多数いただきました。ランナーやボランティアにはパンや飲み物が提供され、日用品、宿泊券、航空券など、各種の品が寄せられ、抽選会も大いに沸きました。ご参加および協賛くださった皆様に心よりの感謝します。

参加・協賛企業・団体

（順不同、敬称略）

【全国協賛】
三菱商事株式会社
富士通株式会社
ステート・ストリート・コーポレーション

【参加・協賛】
東燃ゼネラルグループ
シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社
エクソンモービル・ジャパン合同会社
株式会社カークギルジャパン
富士ゼロックス端数倶楽部
ジョンソンコントロールズ株式会社
キャセイパシフィック航空日本支社
ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社
フットマーク株式会社
花王ハートポケット倶楽部
有限会社中村商店
聖路加国際病院
株式会社アサヒ・エコキャリアー
岡谷エレクトロニクス株式会社
WAHL & CASE K. K.
アメアスポーツジャパン株式会社

山崎製パン株式会社
アーバン ベンディックスネットワーク株式会社
キックマン株式会社
東京海上不動産投資顧問株式会社
ライオン株式会社
株式会社ダイエー
株式会社昭和電気産業
コストコホールセールジャパン株式会社
有限会社レッド ウイング
株式会社恵愛
尾瀬戸倉温泉 ホテル玉城屋
国際青少年センター東山荘（日本Y M C A同盟）
東京Y M C A妙高高原ロッジ
しのためY M C Aこども園
東京Y M C A江東コミュニティーセンター／江東Y M C A幼稚園
東京Y M C A東陽町コミュニティーセンター
東京Y M C A国際ホテル専門学校
東京Y M C A山手コミュニティーセンター
東京Y M C A山手学舎
東京Y M C A西東京コミュニティーセンター
東京Y M C A南コミュニティーセンター
ワイズメンズクラブ国際協会在京ワイズメンズクラブ



東京ベイサイドワイズメンズクラブ 笑顔の街づくり目指す

江東区・東雲地域に新しく「東京ベイサイドワイズメンズクラブ」が誕生し、9月20日、『国際協会加盟認証状伝達式（チャーターナイト）』が、東陽町センターにて盛大に行われました。当日の参加者は約130名、第一部では江東区長の山崎孝明氏もお見えになり、祝辞をいただきました。ワイズメンズクラブは、YMCAを通じて地域を中心に、国内外への奉仕活動を展開する国際的な団体です。「東京ベイサイドワイズメンズクラブ」は、再開発計画が進められる東雲地

渋谷駅前で街頭募金 パレスチナ・ガザなど支援



“世界に変革をもたらす旅”へ
国際委員会 委員長 張替 滋夫

今年も渋谷駅街頭にて、昨年を上回る成果をもって国際協力募金を無事終えることができた。関係各位とりわけ東京YMCAスタッフの献身的な働きに感謝したい。「キャンペーン」という言葉の語源が、“野（camp）”であって戦うこと“運動を起こすこと”であるなら、募金の終わりが来年の募金への始まりだろう。パレスチナ・ガザ地区支援のパンフをみて、イスラエル青年とおぼしき人が激しく抗議し立ち去る場面があった。ミッションを伝え切ることの難しさ、その力をつけることの大切さを教えられた。

目下の天変地異の激しさや政治経済の流動化も、共に私たちに本質的な変化を要求している。世界YMCA同盟の“世界に変革をもたらす旅への参加”の呼びかけに応じつつ、「恵まれぬ若者への学びと活動の場の提供」のために、バンクラデシュ始め様々なプログラムの進展に、国際委員会として今年もまた尽力したい。

途上国の子どもたちの教育支援等を目的として、東京YMCAでは毎年9月に渋谷駅前街頭募金活動を行っています。今年も暑が続く9月6日の午後1時から5時まで、会員、ワイズメン、園児、ボランティアリーダー、にほんご学院留学生、高等学院生徒、社会体育・保育専門学校生、国際ホテル専門学校生など154人が道行く人々に心を込めて呼びかけました。昨今の電子マネーの普及により以前ほどは募金が集まりにくくはなっているものの、街頭に立つことで普段は見えにくい海外の社会問題を知っていただく機会にもなっています。多くの方々のご支援によって21万3392円の募金が寄せられました。お預かりした募金は、バンクラデシュYMCAが行っている教育活動や診療所支援のほか、今年は特に、パレスチナのカザYMCAが実施している子どもたちの精神的ケア・プログラムのために大切に用いられます。（会員部 村上祐介）

参加費を支援する フレンドシップファンド

児童養護施設「東京育成園」より感謝状

YMCAの皆様

拝啓

厳しい暑さも和らぎ、昼夜の気温差が大きくなってきておりますが、皆様お変わりございませんでしょうか。

この夏もAくんをキャンプに参加させていただき、ありがとうございました。

日常では中学2年という年齢もあり、口数が少なくなることもあります。しかしキャンプの話になると、キラキラと目を輝かせ、口数も急に増えるようになります。本当にAくんにとって、このキャンプとキャンプに集まる仲間が存在が大きいのだなということを痛感させられました。たくさんの経験と思い出、そして多くの仲間との出会いと友情を下さったYMCAの皆様にご心より感謝申し上げます。

敬具
(東京育成園 担当者一同)

「フレンドシップファンド」は、経済的な理由によって東京YMCAのキャンプなど活動に参加できない子どもたちに、参加費の全額もしくは一部を援助する基金です。毎年多くの方から寄付をいただき、年に20人ほどの子どもたちを支援しています。このたび、夏にキャンプに参加した児童養護施設「社会福祉法人東京育成園」の先生と子どもたちから感謝状をいただきました。



東京YMCA山中湖センターの施設整備を目的としたチャリティーコンサートが9月26日、本会の理事でオルガニストの飯端子さんと、ご子息でウィオラ奏者の飯頭（いいあきら）さんによって行われました。会場は日本キリスト教団霊南坂教会。YMCAキャンプをこよなく愛した夫・飯忍（いいしのぶ）主事への追悼の思いをこめ、バッハの「トッカータとフーガー」やヒンデミットの「無伴奏ウィオラソナタ」などが演奏されました。アンコールでは、忍さんの愛唱歌「我が歌う場面もありました。会場には145人が訪れた。席上献金も合わせて20万円が寄付されました。山中湖センターは、年に3500人の障がい児・者を含む1万2000人以上が宿泊する研修施設で、昨年度開設90周年を迎えました。次の100周年に向けて今後施設整備を継続していく計画です。

チャリティーコンサート

山中湖センター施設整備のため

シリーズ
資料室の窓から(87)

幼児プログラム元年

本会元副総事 齊藤 實



何となく、「元年」には「前史」がある。「前史」は1951年5月1日に始まる。この日、「東京YMCA江東フラン

チ」は「YMCA育心保育園」を開いた。東京YMCAでの幼児プログラム開始である。当時のいわゆる「措置児」を50名受け入れることで都知事安井誠一郎が「児童福祉法第35条第2項の規定により同法第39条に規定する保育所」として認可した「児童福祉施設」であった。しかし、初めから措置児は少数であった。入園児を選抜する「入園テスト」は、私がその頃通っていた東京教育大学心理学教室の指導を受けて作ったものであった。選考当日の風景は、いまだに脳裏に明確である。この保育園児だけの3泊4日のキャンプを行ったのが、1956年夏である。保護者が一緒にではない。幼児の3泊4日にわたるキャンプは、我が国最初のものであり開拓的なものであったと江東フラン20周年記念誌は記録している。ここまでは「前史」となる。

時を経た1966年春、東京教育大学で体育学を修めて主事となっていた木塚敏夫が、自ら開発したプログラムを掲げて「幼児体育教室」を始めた。毎週2回「リズム体操・マット運動・ランニング・水遊びと水泳」が体育館の全施設を用いて展開された。「丈夫なからだは幼児期に基礎が出来ます」と謳った。この年、武蔵野フランは「つぼみグループ」を始めた。幼稚園入園前の幼児が「子ども同士で触れ合いながら、配慮ある大人の指導者の下でグループ体験」を進める。「毎回子供礼拝が行われ、讃美歌。お祈りも子供達が生けんめいやっています。宗教的な雰囲気の中で子供同士、また子供と先生の間で温かい関係が生まれています」と『武蔵野YMCA30年』誌は書いた。この年1966年を私たちは「東京YMCA幼児プログラム元年」と呼ぶ。

すべての人を一つにしてください

ロボットと人間を分かち合え

「空をこえてララ星の小さな、ゆくぞアトムジェット」の限り、心やさしララ科学の子十萬馬力だ鉄腕アトム」（谷川俊太郎作詞 鉄腕アトム）

いまやロボットは工場や漫画の世界だけでなく、日常生活・家庭の中にも多く活用されています。掃除、洗濯、その他人間の通常の活動の多くをロボットが手伝ってくれています。昔あこがれた鉄腕アトムとは少し姿は違いますが、人間の不足部分を補う形で、便利な生活をもたらしてくれそうです。卓球の相手をしたり、将棋やチェスなども人工知能（ロボット）が人間に勝

「空をこえてララ星の小さな、ゆくぞアトムジェット」の限り、心やさしララ科学の子十萬馬力だ鉄腕アトム」（谷川俊太郎作詞 鉄腕アトム）

そこまで発達すると人間との違いはなにか、さらに人間とは何かというテーマにつきあたります。「私」がロボットで代換え可能だとすれば「私とは何か」という問いです。「私はどういうことで人間なのか」を突き付けられている気がします。

ロボットは人間が作ったものです。では感情も豊かで泣き笑い怒る「人間」は誰が作ったものなのでしょうか。そしてもっと大切な問いは「何のために作られたか」です。争うためでしょうか。世界を支配するためでしょうか。

「ブルート」の中に印象的なセリフが出てきます。「憎しみからは何も生まれない」。

（総主事 廣田光司）